

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

地域や関係諸機関との積極的な連携・協力が行われている実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

宮城県白石市

○学校名

白石市立白石中学校

○学校のURL

<http://www.shiroishi-j.myswan.ne.jp>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各 3 学級，【特別支援学級】 3 学級，【合計】 1 2 学級

○児童生徒数

【全生徒数】 3 1 2 人（平成 2 4 年 1 1 月 1 日現在）
（内訳：1 年生 103 人，2 年生 100 人，3 年生 109 人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

2 1 世紀に生きる人間として，健康な身体と豊かな感性をもち，確かな学力を備えた生徒を育成するとともに，何事にも創造的・主体的に取り組む自立した生徒の育成を目指す。

【人権教育に関する目標】

- (1) 情操豊かで他人への思いやりをもち，「共に生きる」福祉の心をもつ生徒の育成に努める。
- (2) 互いの個性を尊重し合い，異なる文化や多様性を容認する心をもつ生徒の育成に努める。
- (3) 勤労を重んじ，協力して奉仕する生徒の育成に努める。

本年度の努力目標

生徒が身近な福祉活動に興味をもち，一人一人が実践的な活動を行えるよう指導の充実に努める。

○人権教育にかかる取組の全体概要

○全校として取り組む実践

- (1) P S C（P：Police，S：Student，C：Cooperation）活動の展開による地域の安全・安心を守る活動への貢献。
- (2) 校舎を共にしている角田支援学校白石校と特別支援学級の合同授業をはじめ，体育祭や文化祭，合唱コンクールなどといった学校行事を通しての交流。
- (3) 震災後の地域の復興に向けた奉仕活動の実践によるボランティア精神の涵養や白石市民の一員としての自覚の高揚を目指し，全校ボランティア活動を実

施。
(4) 地域活動への積極的な参加の奨励。

3. 特色ある実践事例の内容

◆学校、警察、企業が連携し、安全・安心な環境づくりのために活動している取組
(取組のねらい、目的)

P S Cパトロール隊は、白石市内6中学校の生徒が、下記の趣旨で活動しているボランティア団体である。

- (1) 白石市民としての自覚をもち、安全・安心をモットーに活動することを通して、地域の住みよい環境の維持に貢献するたくましい人になる。
- (2) 交通事故の悲惨さを考え、日頃交通安全のために活動している人たちのありがたさを実感し、交通事故防止を呼びかける。
- (3) 青少年の健全な育成を目指し、目先の楽しみだけを追うことのない、常識と非常識をしっかりと判断できる人になる。

(取組を始めたきっかけ)

P S Cパトロール隊は、平成18年度に白石市内3校(白石中学校・福岡中学校・東中学校)の生徒が、当時全国的に発生し社会問題となっていた、少年による凶悪事件に心を痛め、「自分の身は自分で守る」という意識のもと、白石警察署と協力体制を築き、協定書を交わして組織された団体である。同時に、地元企業や地域のボランティア団体の賛同を頂き、サポート協議会が発足され、資金面での援助が計画的に行われるようになった。その後、平成20年〔

度には南中学校、平成24年度には小原中学校と白川中学校が参加し、市内の全中学校が揃って活動するようになった。

(取組の内容)

平成18年度の発足以来、各中学校では校内の実態や地域の特性に応じて、生徒自身が問題点を考え自主的な活動を行ってきた。その内容については、各中学校が独自で進めている活動と、共同で実施している活動に区別される。ここでは、その一部を紹介したい。

(1) P S C協定書締結式

この締結式は、白石警察署長、各校の校長、P S Cパトロール隊の代表生徒、協賛企業団体、地域ボランティア団体の代表者が出席し、白石警察署を会場にして毎年行っている。代表生徒が決意表明を行い、その後、警察署と学校の間で協定書を締結する。協定書の第3条では情報交換について、第4条では情報交換の連絡責任者が明確にされており、お互いが連携して積極的に健全育成に取り組む等の内容が示されている。

(2) 万引き防止活動

夏休み直前の非行防止教室において、万引きの増加傾向を知り、万引き防止キャンペーンを行った。万引き防止ポスターを市内のスーパーやコンビニエンスス

トア等、約20店舗に掲示して頂いた。また、大型店舗前にてティッシュを配布しながら、万引き防止を呼びかけ、啓発活動を行った。

(3) 危険箇所マップ制作と掲示

通学路内の危険箇所をチェックし、まとめたものを学校内に掲示して全校生徒に呼びかけた。また、以前、事故の発生した場所での遊泳禁止を強く訴えるため、看板を設置した。

(4) PSCいじめ撲滅大会の開催

いじめを苦に自殺する子どもが続く、各校PSCの間で「何か取り組める事はないか」という声上がり、PSCのリーダーと相談した結果「いじめ撲滅大会」を開催することになった。そのための準備委員会では、長時間にわたって大会スローガンが検討された。各校の代表者が、社会の情勢や自己の経験を踏まえて話し合い、右記のようなスローガンにまとめることができた。話し合いでは、建設的な意見が多数出され、いじめ問題への関心の高さが感じられた。

「いじめ撲滅大会」大会スローガン

- I 「死ね」「キモイ」「うざい」などの人を傷つける言葉は絶対に言いません。
- II 「お金をもってきて」のような金銭強要は絶対にしません。
- III 人を「殴る」「蹴る」「たたく」などの暴行は絶対にしません。
- IV 人の物を「かくす」「こわす」「とる」などの行為は絶対にしません。
- V 人を「無視」したり、「仲間はずれ」にしたりする行為は絶対にしません。
- VI いじめがあったら「見て見ぬふり」は絶対にしません。

大会は、白石警察署で行われ、白石警察署長、白石市教育長、各校校長に来賓として参加して頂いた。その際、スローガンを掲げて作成されたポスターが紹介され、各校や公共機関に掲示して啓発を促した。そして、いじめ撲滅スローガンを、市内の小・中学生にも広めたいという子どもたちの願いを実現するために、クリアファイルを3500枚作成した。このクリアファイルの費用は、すべて市内の企業に協賛して頂いた。学区内の小学校にはPSCメンバーが訪問してクリアファイルを配布し、いじめ撲滅を呼び掛けた。

各校においては、全校集会でスローガンを紹介したり、校内にポスターやスローガンを掲示したり、朝や帰りの短学活でスローガンを唱和する等、各校独自の啓発運動を展開している。

(5) 交通安全啓発活動

秋の交通安全運動や年末警戒出動式に参加し、交通安全宣言を発表したり、アトラクションとして太鼓の演奏を行ったり、大型店舗前で甲冑を着用して交通安全啓発のプリントやティッシュを配る等の活動を行った（写真1）。



写真1 秋の交通安全運動 出動式

(6) あいさつ運動

各校とも登校時の校門前あいさつ運動を継続して行っている。また、毎月の第1第3木曜日にはJ R白石駅前に集合し、警察官と一緒に通勤途中の社会人や高校生を対象として、あいさつ運動を行った（写真2）。

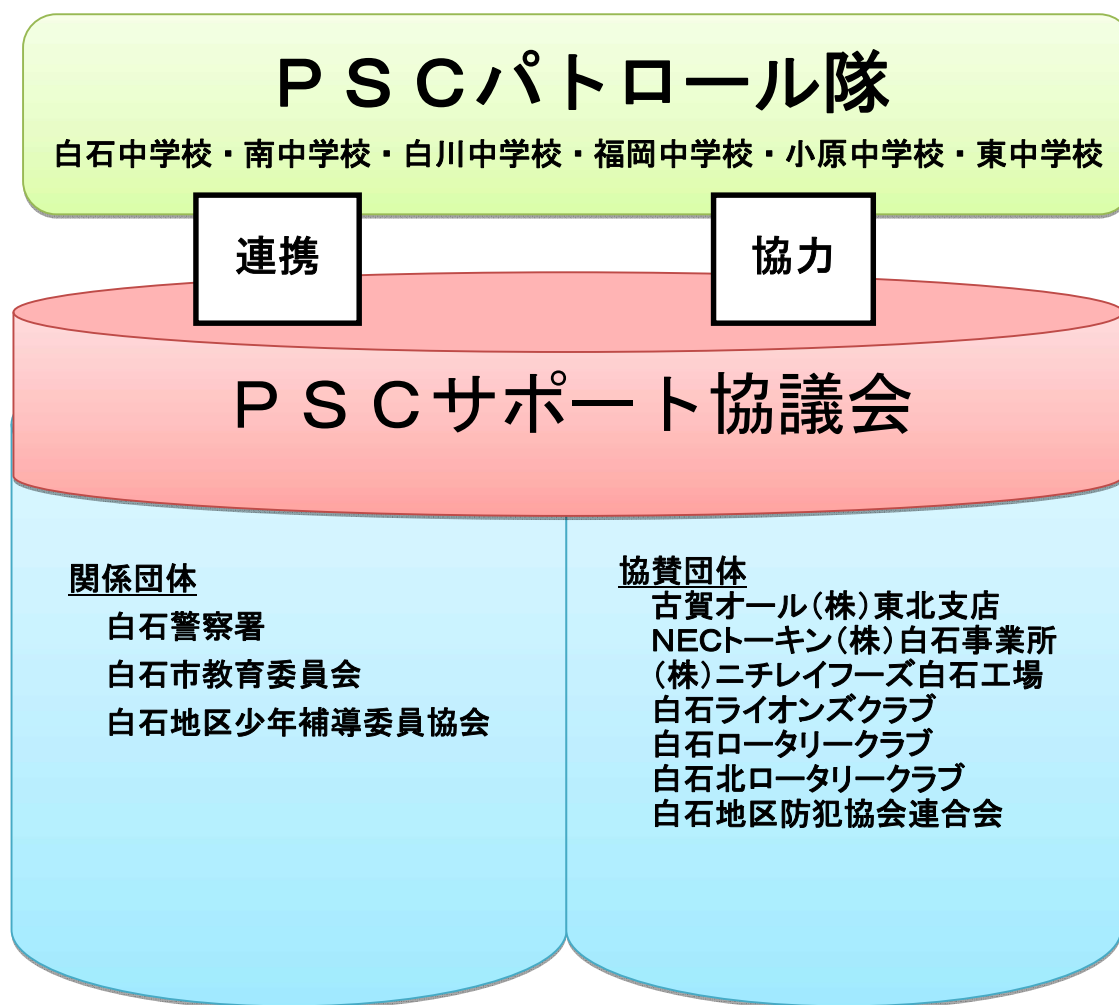


写真2 J R白石駅前でのあいさつ運動

(7) P S Cパトロール結団式

市内全6中学校がP S Cパトロール隊に加盟したことを記念し、結団式を実施した。白石市文化体育活動センターを会場に白石警察署長、各校校長、白石市教育長、協賛・関係団体の代表者の方々に来賓として参加頂いた。警察署と学校の間で協定書が交わされた後、活動時に使用する登り旗やジャンパーが贈呈された。P S Cパトロール隊の代表者が、発足時から現在に至るまでの活動内容をスクリーンで紹介し、最後には宮城県警察音楽隊による記念演奏が行われた。

（取組の主体や実施体制）



(取組を実現するにあたって課題となったこと、及びそれに対して講じた工夫)

学校内外の問題に目を向け、その改善に取り組もうという子どもたちの意気込みや思いを、より効果的に達成させるにはどのような活動が適しているのか模索した。当時、市内では青少年による非行問題が数多く発生しており、なかなかその打開策が見つかっていない現状もあった。そこで、中学生が学校内だけの活動ではなく、地域社会の一員として積極的に地域の大人と関わり、協力・連携しながら取り組むことで規範意識が向上し、市内の健全育成や犯罪の防止に繋がるのではないかと考えた。次に課題となったのは、この活動を継続的に行うための組織づくりである。生徒指導担当者が、校長や市の教育委員会に趣旨を説明し、白石警察署や地域のボランティア団体の理解と協力を求めた結果、快く受け入れていただき、協定を結ぶことが出来た。また、資金面での援助を頂くため、市内の企業にも出向き、協力を取りつけた。このようにして、サポート協議会が設立され、子どもたちと地域社会が結び付く活動の土台が作られた。

4. 実践事例の実績、実施による効果

(取組の実績)

白石警察署管内で出された、犯罪情勢と少年非行の概況が記載されている年冊誌「こまくさ」のデータによると、平成18年度のPSCパトロール隊発足以来、白石警察署管内の非行少年等・補導状況を隔年ごとに見ると、総数及びぐ犯不良行為少年の数が減少していることが分かる。また、いじめ撲滅運動を実施してから、どの学校でも「きもい」、「うざい」等の人を傷つけるような言葉が聞かれなくなった。



(取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項)

子どもたちはこの活動を通して、自分自身が地域に貢献する社会の一員であるという自覚が高まった。さらに、活動内容がテレビや新聞、市の広報誌等のメディアで取り上げられた事で、ますます自分たちの活動に自信と誇りをもって取り組むようになった。また、子どもたちは、活動を通して相手のことを考え、行動することが、社会の一員として大切なことであることを学んだ。

PSCを運営するにあたり、各校独自に組織化され、最近はその活動内容も改善・変化してきている。各校が連携・協力して実施する活動もあるが、各学校の実態や環境が異なるため、その状況に応じた活動が行われるようになっている。

5. 実践事例についての評価

(取組についての評価、及びそう評価する理由)

「自分の身は自分で守る」という意識をもちながら、相手のことを考え、相手のためになることを積み重ねていくことが、事件や事故のない安全で安心な故郷につながっていくことを学んできた。活動に参加した子どもたちは将来、自分の郷土のために様々な角度から取り組むだろう。また、始めは3校からスタートした活動も、現在はその輪が広がり、市内全6校で組織されるようになったという事実が、この活動の広がりを証明していると言える。

(保護者や地域住民からの反応)

保護者や地域住民の方々からは、子どもたちの活動に対してねぎらいの言葉や感謝の言葉が掛けられている。また、昨年度からは企業協賛団体からの資金援助の他に、一口500円で個人協賛金も頂いており、地域からの関心と期待の大きさが伺える。

(現在、実施にあたって課題と感じていること)

今年度で発足から7年目を迎え、スタート当初に課題とされていたことが、生徒や地域の実態が変化していることにより変わりつつある。各校においては、その変化に対し柔軟に対応しているものの、活動のマンネリ化や活動の主導が教師になりつつある現実も否めない。結成時の初心を忘れず、子どもたちの自主的な気付きや社会に対しての問題意識をさらに高揚させるため、各校同士の情報交換や関係機関との連携・協力体制を確認しながら活動を支えていきたいと思う。また、校内における担当者の転勤や校務分掌の変更により、本活動に滞りや支障が出ないように確実な引継ぎが重要であると考えている。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

白石市立白石中学校

学校・地域・関係諸機関との積極的な連携のもと、生徒が創造的・主体的に学校内外の課題を改善するために行う活動を支援する組織をつくり、具体的な取組を確立させた実践事例である。

特に地域の関係団体の理解と協力を得て設立された「P S Cサポート協議会」と協定を結び、継続的な活動を保障するために行った組織づくりに特色がある。この組織を土台として学校内だけの活動ではなく、地域社会の一員として積極的に地域のおとなと関わり、社会人としての意識を高め、住みよい地域づくりに向けて主体的な行動ができるようになってきたと考えられる。また、この活動が市内の全中学校に広がり、地域の人たちからの高い評価と期待を感じて生活することが、生徒の自尊感情の高まりにもつながっている。